

# 2 社会参画への意識を高める内容 政治参加の大切さを実感できる工夫

p.99-100



## ポイント

中学生も参加する「少年議会」の事例を紹介し、政治参加への関心を高められるようにしています。

## 少年議会(山形県遊佐町)

山形県遊佐町では、若者の力によるまちづくりを目指し、2003年度から少年議会が開催されています。遊佐町在住・在学の中高生から「少年町長」1名と「少年議員」10名が、町内の中高生による投票で選ばれます。議員たちは定期的に議会を開き、45万円の独自予算を持ち、提言をまちの政策に反映させることができます。



製作したベンチの設置(2017年)

少年議会の様子(2017年) まちづくり企画のためのワークショップ、ベンチの製作・設置、フォトコンテストなどの政策を実現しました。

資料活用…少年議会は、若者の政治参加においてどのような意味があるのだろうか。

## 4 私たちと政治参加

### 学習課題

私たちは、どのような方法で政治に参加することができるのだろうか。

### 若者の政治離れはなぜ問題か

これまで、国や地方の政治と私たちの関わりについて学んできました。しかし近年、若者の間で政治に対する無関心が広がっているといわれます。近年の選挙では、若い世代の投票率が他の世代より低い傾向が続いています。

若者の多くが投票を棄権していると、政治家は投票する人の多い年長の世代が抱える問題を優先して取り組むようになるかもしれません。近年急速に進む少子高齢化によって、日本の人口に占める若者の割合は減り続けています。若者の意見を政治に反映していくためには、今まで以上に積極的な政治参加が求められています。

そうしたなか、2015(平成27)年6月に公職選挙法が改正され、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられました。

みなさんは、たった一人の意見では政治に影響がないと思うかもしれませんが。日本の若者は世界の若者と比べて、政治に対する関心が低いという調査もあります。しかし民主政治の下では、世論の支持がなければ政治を行うことはできません。2009年と12年の衆議院議員選挙では、有権者の選択によって、政権が交代しました。また、中学生の請願活動に

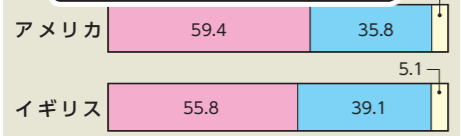
若者が投票を棄権すれば若者の声が政治に反映されにくくなることから、若者の政治参加が大切なことを解説しています。

	制度あり	制度なし
間接的	選挙(→p.75)	圧力団体(→p.74)
直接的	国民審査(→p.60,88) 憲法改正の国民投票(→p.62) 直接請求権(→p.96)	住民運動(→p.96)

さまざまな政治参加の方法

## ポイント

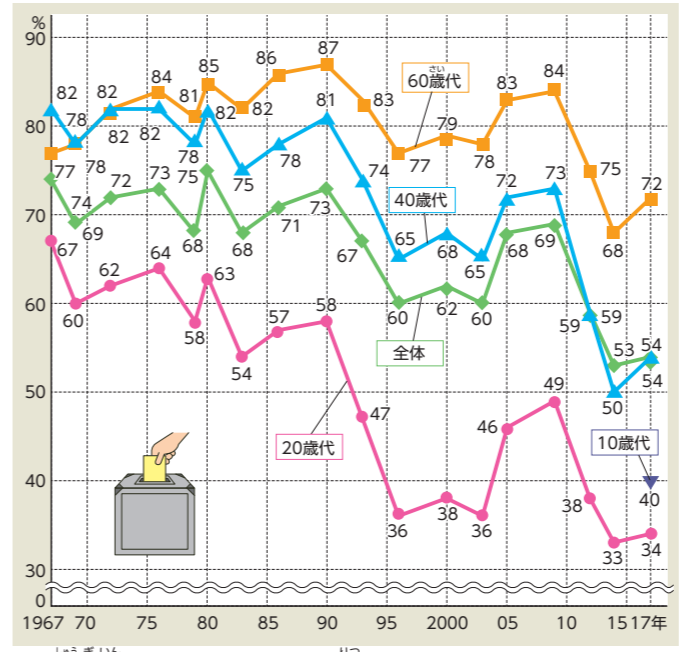
若者が投票を棄権すれば若者の声が政治に反映されにくくなることから、若者の政治参加が大切なことを解説しています。



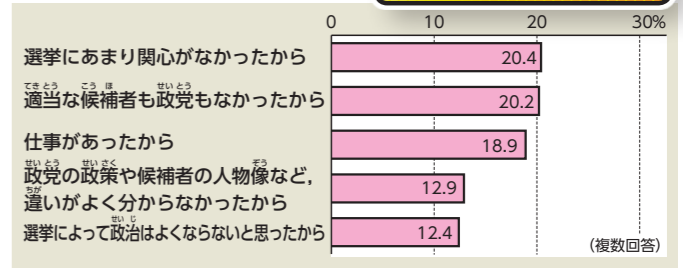
若者の政治に対する関心度(2013年)(内閣府資料)

政治単元の最後の見開きでは、政治参加の大切さについて本文で解説することで、社会参画の大切さを考えられるようにしています。

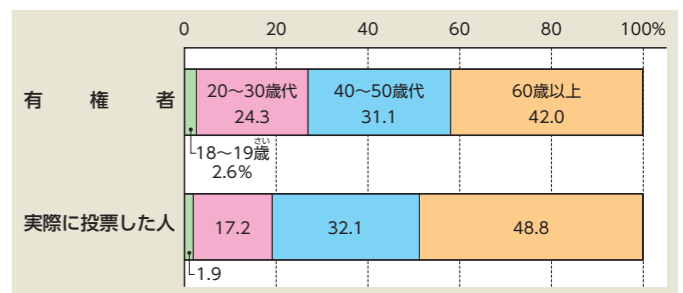
## 原寸大



衆議院議員選挙の年代別投票率(明るい選挙推進協会資料)



投票に行かなかった理由(2017年)(明るい選挙推進協会資料)



有権者および実際に投票した人の年代別割合(2017年)(総務省資料) 資料活用 割合が異なるのはなぜだろうか。

よって路上喫煙禁止条例が制定された例や、市町村合併の是非を問う住民投票に中学生も投票したという例もあります。私たちが積極的に政治参加することによって、社会を変えていく力があることを自覚しましょう。

民主主義においては、選挙の日に一票を投じることはもちろん、これまで学んださまざまな方法で、主権者としての意思を政治に反映できます。

中学生にとっては、今すぐ政治に参加し、取り組める場面は少ないかもしれませんが、私たちの身の回りには、意見が対立する社会的な問題が多く存在しています。私たちは個人の尊重や法の支配といった考え方を大切にしながら、こうした対立を調整して合意を作り、問題を解決していくことが求められています。これから

の将来を見据え、よりよい社会をつくり出していくためにも、私たち一人一人が積極的に社会づくりに参画していくことが大切です。

日本の政治の未来は、私たち自身の意思決定によって決まります。よりよい社会を実現していくための政治の在り方やしくみ、また私たち自身がどのように政治に参加していくべきなのかについて、学習してきたことを基にしながら、自分なりに考えてみましょう。

## ポイント

グラフから若者の投票率低下を読み取ることで、若者の政治的無関心が現実の政治に与える影響について考えることを促します。



中学生も投票した住民投票(2003年)長野県平谷村では、他市町村との合併を巡って、全国で初めて中学生以上の村民を対象とした住民投票が行われました。

## ポイント

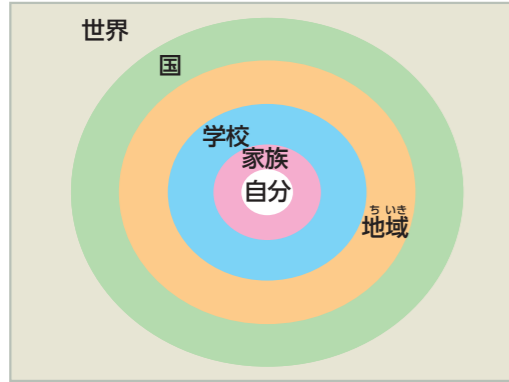
社会参画や政治参加について、自分なりに考えることの大切さを語りかけています。

第3節の問いを振り返ろう p.93~100 地方自治や民主政治を発展させるために、私たちがすべき政治参加について、今できることと、将来すべきことに分けて構想してみよう。

# 特色 2 社会参画への意識を高める内容 それぞれの単元で社会参画を追究

## 1 第1部「現代社会」では

▶ 家族や地域社会の役割をしっかりと解説することで、人間は一人では生きていけない「社会的存在」であることを理解することで、家族や地域社会を構成する一人としての社会参画への意識を育めるようにしています。



▶ p.18 社会集団の例

**社会的存在としての私たち** 私たちは、かけがえのない一人の人間ですが、一人では生きていけません。家族や地域社会、国、世界などさまざまな社会集団の中で人々となつたり、助け合い、互いを尊重しながら共に生きています。このようなことから、人間は社会的存在といわれています。

**私たちと家族・地域社会** 私たちにとって家族とは、最も基礎的な社会集団です。私たちは家族との「団らん」のなかで「休息や安らぎ」を得て、明日への活動の精神的な力を養っています。また、言葉や社会習慣、社会のルールを学び、愛情や道徳など人間の在り方を身につけます。家事、育児、家族の看病や介護といったものも、互いの存在を大切なものとして支え合うという大切な家族の役割です。こうして、家族という集団は、個人が社会の一員として成長していくために大きな役割を果たしています。

また、私たちは、住民どうしが協力し合いながら生活する地域社会の中でも暮らしています。地域社会を支える自治会や消防団、子ども会などの組織は地域住民によって運営され、防災など私たちの社会生活をよりよいものにするための重要な活動を行っています。

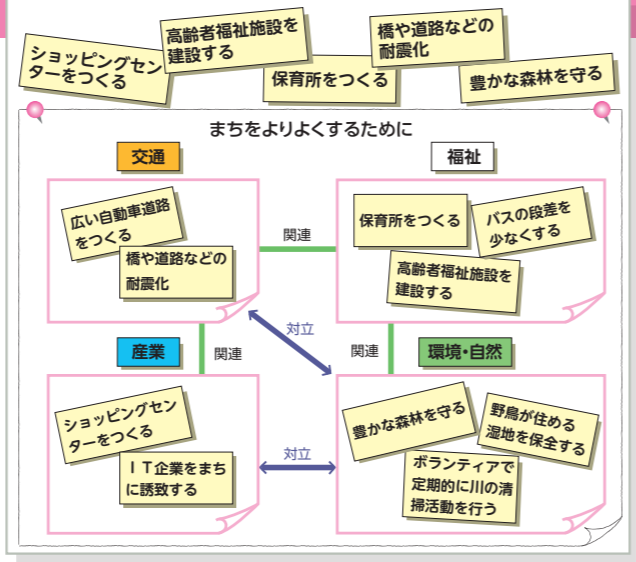
▶ p.18

## 2 第2部「政治」では

▶ 社会の変化をふまえて、自分の住むまちをよくする方法を考えることで、住民としてまちづくりへの参画意識を高められるようにしています。

**社会の変化と地方自治** 近年、少子高齢化や大都市への人口流出などによって、税収が落ち込み、活力が失われつつある地方公共団体が増えており、大きな課題となっています。それぞれの地方公共団体は、将来にわたって持続可能なまちを目指して、子育ての支援や高齢者向けの福祉を充実させたり、防災や減災に取り組んだりすることによって、住民がいきいきと安心して暮らせるまちづくりを進めることが求められています。

▶ p.98



▶ p.101 KJ法でまとめた例

## 3 第3部「経済」では

▶ 働くことの意義の解説や、障がいのある人も得意分野を生かして働いている事例を通じて、自分の将来の職業生活を考えることで、社会参画への意識を高められるようにしています。

**働くことの意義** 私たちは働くことでお金を稼ぎ、自分や家族の生活を支えます。しかし、それだけが働くことの意義ではありません。例えば、バスを運転する人がいることで私たちがバスを利用できるように、それぞれの職業で働く人が分業することで、社会が成り立っています。社会となつたり、社会の支え手になることは、私たちの生きがいや充実感にもつながります。

▶ p.137

### 未来に向けて 人権 障がいがあっても働ける場を(神奈川県川崎市)

学校で使うチョークなどを製造・販売するN社は、従業員の7割以上が知的障がいのある人です。N社ではそれぞれの理解力に合わせて、作業工程を工夫・改善しています。例えば、チョークを入れるだけで品質検査が可能な器具を用いるなどして、社員の能力を引き出す環境づくりに努めています。

#### 声 障がい者雇用を促進する経営者の声

知的障がいのある社員がいつも高いレベルで安定した仕事をしているので、1日平均12万本のチョークの生産が可能になっています。人には、得意分野・不得意分野があります。仮にできないことがあったなら、できる人が代わりにやればよいのです。一人一人にできることがあるということが伝われば、障がい者雇用も広がっていくと思います。



▶ N社の職場の様子 知的障がいのある社員が、生産ラインのほとんどを担っています。

▶ p.138

## 4 第4部「国際」では

▶ 国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)と私たちの関わりを解説することで、「持続可能な社会」の実現に向けた社会参画への意識を高められるようにしています。

**SDGsと私たち** この教科書の第2部では、男女の平等や教育を受ける権利などについて学習してきました。第3部では、労働者の権利や技術革新(イノベーション)の推進などについて学習してきました。これらもSDGsに含まれています。SDGsの達成には、私たち自身の取り組みも重要です。よりよい国際社会を実現するためには、まず世界の諸課題の現状や背景を知り、関心を持ち続けることが大切です。中学生の今できることは限られていても、将来取り組めることもあるでしょう。SDGsを達成して「持続可能な社会」を実現していくために、今できること、将来してみたいことを、自分なりに考えてみましょう。

▶ p.196



▶ 国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標

▶ p.195 国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標

# 社会参画への意識を高める内容 積極的な社会参画を促す豊富な具体事例

## A 「よりよい社会を目指して」

▶ 人権保障や環境保全、防災など、日本各地で行われている社会の課題への取り組みを紹介し、生徒が社会参画について具体的にイメージできるようにしています。



▶ p.197 稲城市による多摩川清掃活動

### 「よりよい社会を目指して」掲載箇所一覧(5テーマ)

分野	タイトル	掲載している地域	教科書掲載ページ
巻頭	よりよい社会を目指して	熊本県益城町, 沖縄県那覇市, 神奈川県相模原市, 宮城県岩沼市	巻頭1-2
政治	偏見や差別をなくすために	愛知県一宮市, 東京都東村山市	p.49-50
経済	日本経済の発展に必要なこと	石川県小松市, 大阪府東大阪市	p.153
国際	地球環境問題, 資源・エネルギー問題の解決に向けて	福島県, 東京都・神奈川県, 神奈川県横浜市, 沖縄県宮古島市	p.197-198
巻末	防災・減災を通じた社会参画	兵庫県神戸市	巻末2-3

## B 「未来に向けて」

▶ これからの社会が直面する課題を考える際の参考になる、「グローバル化」「少子高齢化」「人権」「情報化」に関する取り組みを紹介しています。

### 「未来に向けて」掲載箇所一覧(12テーマ)

観点	タイトル	教科書掲載ページ
グローバル化	外国人と共に生きる社会	p.6
少子高齢化	子どもと高齢者が共に過ごす	p.8
	「長寿と健康」による医療費の削減	p.166
人権	中学生が実践した民主主義	p.30
	アイヌ語への思い	p.48
	肝炎患者を救うために	p.68
	障がいがあっても働ける場を	p.138
	水俣病患者としての認定を求めて マララさんが訴える子どもたちの「教育を受ける権利」	p.196
情報化	政治の動きを伝えるために	p.70
	家計簿アプリでお金を「見える化」	p.132
	ビッグデータを生かした経営戦略	p.136

**未来に向けて**

**人権** マララさんが訴える子どもたちの「教育を受ける権利」

**マララさんの訴え**  
すべての子どもたちに「教育を受ける権利」を保障してください。1人の子供も、1人の教師、1冊の本、1本のペンでも世界は変えられます。無学、貧困、テロリズムと戦いましょう。教育こそがただ一つの解決策です。

**国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に関連が深いテーマには、タイトルにマークを付けています。**

▶ p.196

## C 「先輩たちの選択」

▶ さまざまな分野で活躍する「先輩たち」からのメッセージを取り上げています。自分自身の将来進むべき道を考えるきっかけとなるようにしています。

**先輩たちの選択**  
民主主義の実現  
民主主義を広めるために  
世の中の現状を伝えたい

池上彰さん  
1950年、長野県出身

**Q** 民主主義はどういうものと考えていますか？

ただ民主的な選挙があればそれで民主主義ってなるわけではない。選挙は大事なんだけど、常に、人々があらゆる情報をきちっと得ることができて、一人一人の人が自分の頭で考えて、判断することができる。そういう人たちがいてこそ民主主義っていうのは成り立つのかな。

▶ テレビ番組でニュースを解説する池上さん

**Q** 18歳で選挙権を持つ中学生にメッセージをお願いします。

今から、君たちが若い力で政治を動かすことができるんだってことを示せば、政治家たちも君たちのほうを振り向いてくれる。そのための力を付けましょう。

もう一つは、世の中のことに興味を持ち、政治について関心を持つことで、自分はどう生きるべきかっていうことを考える。そのきっかけにしてください。

▶ p.104 ジャーナリスト 池上彰さん

**先輩たちの選択**  
文化の継承と創造の意義  
伝統を受け継ぎアップデートしていく

野村萬斎さん  
1966年、東京都出身

私もその中に入っていきますけれども、お年寄りが増えて、日本という国も地球という星も年をとってくる可能性がある。そういう社会で、皆さんがどういうふうな力を発揮していただけるかと期待したいし、お願いしたい。何か若返る活力というか、皆さんが地球にも、日本の国にも栄養を与えてほしい。世界中にももっと栄養が必要かなという気がします。

▶ インタビューの様子(2018年)

▶ p.13-14 狂言師 野村萬斎さん

**先輩たちの選択**  
よりよい国際社会の実現  
「誰も取り残さない」  
社会をつくりたい

宮原麻季さん  
埼玉県出身

**Q** シャプラニールでのお仕事を通じて、どういった社会を実現していきたいとお考えですか？

「すべての人が持つ豊かな可能性が開花する社会」をつくりたいです。そのために、貧困を解決し、SDGsの理念に通じる「誰も取り残さない」ことを使命に活動しています。学校建設や井戸掘りなど、別の分野で深い知識を持っている他のNGOや市民団体などと情報を共有したり、行政を巻き込んで一緒に取り組んでもらったりすることも、目標を達成するうえでは大事なことでと考えています。

▶ 手すき紙を作る女性

**Q** 中学生にメッセージをお願いします。

世界はとっても広いです。ぜひいろんな国に行ってみたり、もしくは行かなくても、自分の身近にいる外国の方と接してみたりして、自分と違うということをまず分かってほしいと思います。分かったうえで、「違うから嫌だ」とか「違うから話したくない」とか「違うから私たちのほうがすごい」とか思わずに、「へえ違うんだ、それってどうして」と思うようになってほしいです。ぜひ違うことを楽しんでほしいし、そのことがその人が住む国やその人自身を知ることにもつながると思います。

▶ p.200 シャプラニール=市民による海外協力の会 宮原麻季さん

### 「先輩たちの選択」掲載箇所一覧(6テーマ)

単元	職業	お名前(敬称略)	タイトル	教科書掲載ページ
現代社会	狂言師	野村萬斎	伝統を受け継ぎアップデートしていく	p.13-14
政治	国会議員	(A議員)	企業経営の経験を生かし日本の政治を変えていきたい	p.85-86
	ジャーナリスト	池上彰	民主主義を広めるために世の中の現状を伝えたい	p.104
経済	酪農家	石田陽一	おいしい牛乳を作ってみんなを喜ばせたい	p.154
国際	国連職員	焼家直絵	「本物の国連職員」として飢餓のない世界をつくりたい	p.199
	NGO職員	宮原麻季	「誰も取り残さない」社会をつくりたい	p.200